

「忍者パルクール2019」におけるスポーツで人とまちを元気にするプロジェクト

団体名 ● 人間科学部スポーツ学科 池田幸應・西村貴之ゼミナール / 代表者名 ● 池田幸應(人間科学部教授)

はじめに

1964年の東京オリンピックから55年が過ぎ、「スポーツには世界と未来を変える力がある」を大会ビジョンとし2020年7月～9月、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。2015年10月にスポーツ庁が設置され、全国的にスポーツツーリズムやスポーツによる地域活性化への取組が推進されている。金沢市においても「金沢市スポーツ推進計画」(2015～2024年度)が策定され、金沢の風土に根付いたスポーツ文化推進による地域振興が図られている。2018年5月に日本最初の「忍者パルクール2018 in KANAZAWA」(全国大会)が金沢城公園内で開催され、筆者も大会実行委員、池田ゼミナール学生もスタッフとして運営に関わった。この活動継続として2019年5月3日～5日に「忍者パルクール in 金沢2019」が開催され、スポーツによる地域振興に寄与した。

活動内容

「忍者パルクール2019 in KANAZAWA」の開催

【日時】2019年5月3日(金)～5日(日)

【場所】金沢城公園内新丸広場「特設会場」

【内容】忍者パルクール競技(フリースタイル、スピードラン)、忍者キッズプロジェクト

【運営】主催：忍者パルクール実行委員会、共催：日本パルクール協会

今回、本学人間科学部スポーツ学科の池田幸應ゼミナール(地域関係団体と連携したスポーツ教育・地域ボランティア活動の推進)及び西村貴之ゼミナール(地域関係団体と連携したスポーツ事業の企画・運営)所属学生が、特に「忍者キッズプロジェクト」を中心に企画・運営に中心的に関わった。また、本学野外スポーツ部所属学生も協賛企業の出展ブースコーナーの運営支援活動を行い、北陸大学学生も運営協力、首都圏の日本工学院専門学校学生も活動記録業務等で共同参画した。



写真：忍者キッズプロジェクト チャレンジコースの様子

成果、結果の考察

今回、「忍者パルクール in 金沢」として2回目の実施であり、「東京2020」へのスポーツ振興もあり、昨年以上の盛り上がりであった。特に池田・西村ゼミナール学生が企画担当した忍者キッズプロジェクトにおいては、3日間で300人以上の親子連れが参加し、「エンジョイエリア」(サイバーホイール、エアートラック;ポネルンド社協力)及び「ニンニンエリア」(バランスゾーン、投げるゾーン、コンビネーションゾーン、忍者チャレンジコース)において、本来子どもたちが持っている身体運動へのニーズに対応し、子どもたちにとっての運動・スポーツのすばらしさや「忍者パルクール」をキーワードとした地域文化に対する興味へとつながる一助となったものと考えられる。

今後の課題、展望

今後、「忍者パルクール in KANAZAWA」を継続発展させ、「学都金沢」の特徴を活かし、より多くの大学間連携による忍者パルクール」を金沢の地から世界に向けて発信して行きたい。